

## 学習アドバイス - 英語

### ■ 公募推薦入試（11月19日）

#### 出題傾向

解答時間 60 分、大問 5 題、小問 30 問である。問題構成は以下の通り。

- 1 読解問題（5 問）
- 2 読解問題（5 問）
- 3 読解問題（5 問）
- 4 読解問題（5 問）
- 5 文法・語彙問題（10 問）

大問1は、「英語の学習」に関する 120～160 語程度の 2 つの論説文を読んで、その内容に答える問題であった。

大問2は、「広告の効果」に関する 300 語程度の論説文を読んで、その内容に答える問題であった。

大問3は、「成功のあり方」に関する 400 語程度の論説文を読んで、その内容に答える問題であった。

大問4は、“shrinkflation”という食品や日用品などを、価格はそのまま、内容量を減らして販売するという時事的な内容の英文に関する 400 語程度の英文を読んで、その内容に答える問題であった。

大問5は、短文を用いた文法・語彙・語法に関する問題であった。

#### 学習アドバイス

大問 5 つの内、英文読解が 4 題と、読解中心の出題構成であった。

論説文を中心とした英文を素材とした読解問題が 5 つ出題されている。また、60 分の試験時間に対して、大問1～5で計 30 問の小問に解答し、1400 語程度の英文を読むことを考えると、時間に余裕があるとは言えない。文章自体は標準的なものであるが、素早く読みつつも正確に解答するには長文に慣れることが必要である。

では、各大問の特徴を見つつ、対策を考えていこう。

### 大問①・大問②

空所に入る文・文の一部・語彙を選ばせる出題であった。ここでは知識よりもむしろ文脈の把握力が試されている。文と文の繋がりを把握する力が問われているといえる。

論理的な文章なので、特に論理関係を表す語句や指示語に日頃から注意しながら読む習慣をつけるとよいだろう。

### 大問③

詳細情報と大意の内容把握力がバランス良く問われている。内容一致問題については選択肢と本文を照らし合わせる力が必要となる。長文問題集などで選択肢の根拠をつかむ練習を日頃から意識すること。

### 大問④

空所問題と内容一致問題から構成されている。いずれも、単なる単語や熟語などの英語の知識ではなく、英文の内容を理解する力が問われている。テーマは

“shrinkflation”という、受験生にとっては聞き慣れない語に関するものであった。ただし、一文目の定義を丁寧に読みとり、その具体的な内容から推測する力があれば十分に理解できるであろう。また、空所補充問題については、選択肢の単語にやや難しい語彙も含まれているので、単語の学習も怠らないこと。

### 大問⑤

文法および語彙力を問う短文の空所補充問題であった。時制・動詞の語法・前置詞・仮定法・関係詞・比較・動名詞に関する知識が問われている。

## ■ 全学統一入試（2月3日）

### 出題傾向

解答時間 60 分、大問 6 題、小問 30 問である。問題構成は以下の通り。

- 1 読解問題（5 問）
- 2 読解問題（5 問）
- 3 読解問題（5 問）
- 4 読解問題（5 問）
- 5 文法問題（5 問）
- 6 語彙・語法問題（5 問）

大問1は、「新聞への投稿」と「3つのEメール」に関する100語程度の英文1つと100語程度のメール文3つを読んで、その内容に答える問題であった。

大問2は、「インド人の少年」に関する300語程度の物語文を読んで、その内容に答える問題であった。

大問3は、「コロナウイルス感染症と人類と感染症の歴史」に関する500語程度の時事的な英文を読んで、その内容に答える問題であった。

大問4は、「食肉」に関する500語程度の英文を読んで、その内容に答える問題であった。

大問5は、短文を用いた文法に関する問題であった。

大問6は、短文を用いた語彙・語法に関する問題であった。

### 学習アドバイス

大問6つのうち、英文読解が4題、文法問題1題、語彙・語法問題1題からなる出題構成であった。

Eメールなどの実用的な文章から、論説文まで多様な英文を素材とした読解問題が4つ出題されている。また、60分の試験時間に対して、大問1～6で計30問の小問に解答し、2000語弱の英文を読むための速読力と情報処理力が不可欠である。したがって、できるだけ数多く読解問題に取り組む必要がある。

まず語彙力を充実させなければいけない。単語集・熟語集を利用して繰り返し覚えることが不可欠である。時間内に4つの読解問題を解ききるには、速読の土台となる単語力、それに加えて基本的な読解力が不可欠であるといえる。

では、各大問の特徴を見つつ、対策を考えていこう。

#### 大問<sup>1</sup>

3つのメールを総合して解答させる問題が出題された。ここでは読解速度に加え、情報処理能力が要求されている。ダブル・トリプルパッセージを解くときは、それぞれのパッセージの関係性を常に意識しながら読みすすめること。共通テストのダブルパッセージの過去問・予想問題などを演習の素材にすると良いだろう。

#### 大問<sup>2</sup>

文章全体を時系列に整理させる問題が出題された。時系列を意識して読むためには、詳細情報を探る能力も大切だが、それに加えて、大意に沿って詳細情報を把握しながら読んでいく力が不可欠である。大問<sup>1</sup>と同様、共通テストを積極的に演習の素材として活用すると良いだろう。

#### 大問<sup>3</sup>・大問<sup>4</sup>

「コロナウイルス」や「食と環境」についての時事的な英文を題材に、必要な情報をいかに速く、いかに正確に読み取るかをはかる問題であった。詳細情報を問う設問と大意を問う設問がバランスよく出題されている。

#### 大問<sup>5</sup>・大問<sup>6</sup>

文法および語彙力を問う短文の空所補充問題であった。強調構文、否定、分詞、接続詞、前置詞、動詞・形容詞・副詞の語法などの知識が問われている。

## ■ 一般入試（2月7日）

### 出題傾向

解答時間 60 分、大問 5 題、小問 30 問である。問題構成は以下の通り。

- 1 読解問題（5 問）
- 2 読解問題（5 問）
- 3 読解問題（5 問）
- 4 読解問題（5 問）
- 5 文法・語彙・語法問題（10 問）

大問1は、「古代ローマ」を舞台にした、400 語程度の物語文を読んで、その内容に答える問題であった。

大問2は、「小学生の座り方」に関する 450 語程度の英文を読んで、その内容に答える問題であった。

大問3は、「ある若い報道記者」に関する 500 語程度の随筆文を読んで、その内容に答える問題であった。

大問4は、「ある女性の発明」に関する 550 語程度の英文を読んで、その内容に答える問題であった。

大問5は、短文を用いた文法・語彙・語法に関する問題であった。

### 学習アドバイス

大問 5 つのうち、英文読解が 4 題と、文法・語彙・語法問題が 1 題という読解と文法・語彙からなる出題構成であった。

読解力重視とは言え、設問の中には正確な文法力がないと解けないものもあり、何より英文を正確に読むためには基礎的な文法力は不可欠である。文法に自信のない人には、まず基礎的な文法事項について詳しく書かれた参考書などを読むことをすすめる。

では、各大問の特徴を見つつ、対策を考えていこう。

#### 大問1

school や as などの多義語など、一見すると簡単な単語からなる英文の意味を問う設問、指示語を含む英文の意味を問う設問、本文の内容を問う設問が出題されていた。まず語彙力を充実させること。網羅的な問題集を利用して、文法はもちろん、語法・語彙なども繰り返し返

し覚えることが不可欠である。

大問<sup>2</sup>

大問<sup>1</sup>と同様、指示語を含む英文の意味を問う設問を中心とした出題であった。特に、指示代名詞 **this**、**these**、**that**、**those**、**such** 等は頻出である。

大問<sup>3</sup>・<sup>4</sup>

それぞれ内容一致を中心とした出題であることから、短時間で内容を把握する力を養っておきたい。そのためには、精読と多読の両面からの学習が必要である。

大問<sup>5</sup>

文法・熟語を問う短文の空所補充問題で、動詞を中心とした熟語の知識を問う出題であった。基本動詞と、前置詞・副詞の組み合わせからなる熟語は、それぞれの原義を辞書で調べた上で覚えると効果的である。

## ■ 一般入試（2月8日）

### 出題傾向

解答時間 60 分、大問 5 題、小問 30 問である。問題構成は以下の通り。

- 1 読解問題（5 問）
- 2 読解問題（5 問）
- 3 読解問題（5 問）
- 4 読解問題（5 問）
- 5 文法・語彙・語法問題（10 問）

大問1は、「鳴鳥が鳴き方をどのように学ぶか」に関する 400 語程度の英文を読んで、その内容に答える問題であった。

大問2は、「日本人の外国語学習の問題点」に関する 300 語程度の英文を読んで、その内容に答える問題であった。

大問3は、「教育の質」に関する 400 語程度の英文を読んで、その内容に答える問題であった。

大問4は、「野生の馬の減少」に関する 350 語程度の英文を読んで、その内容に答える問題であった。

大問5は、短文を用いた文法・語彙・語法に関する問題であった。

### 学習アドバイス

大問 5 つのうち、英文読解が 4 題と、文法・語彙・語法問題が 1 題という出題構成であった。

英文読解に取り組む際には以下のことを心がけて欲しい。

- ・単語帳を繰り返し暗記すること
- ・英文法を完璧にすること。
- ・英文解釈の練習をすることを怠らないこと。
- ・過去問を数多く解き、一度読んだ英文を題材に、繰り返しをすること。
- ・段落ごとの内容を問う問題が中心なので、普段から英文読解では各段落の要旨を 1 文の日本語でまとめる練習をすること。

上記のような学習に取り組んだ上で過去問演習を行うと良いだろう。

では、各大問の特徴を見つつ、対策を考えていこう。

## 大問<sup>1</sup>・大問<sup>2</sup>

論説文を用いた読解問題で、設問は語句説明問題、指示語問題、内容一致問題、空所補充問題で構成されている。いずれも英文を論理的に読む力があるかどうか問われているのが特徴である。今年度は他日程では出題されていないが、昨年度も出題された英文挿入問題は、語句説明問題・指示語問題・空所補充問題で必要となる思考力を総動員する必要がある。一度解いた後に解答の根拠を書き出してみると良いだろう。

設問の形式は様々であるが、いずれも英文の理解を問う問題なので、普段から読解の学習を怠らないことが大事である。その際、一度解いた問題の英文を繰り返し音読すると効果的である。

## 大問<sup>3</sup>・<sup>4</sup>

それぞれ 5 問の内容一致が中心の出題であることから、短時間で内容を把握する力を養っておきたい。そのためには、精読と多読の両面からの学習が必要である。

## 大問<sup>5</sup>

文法・語彙・語法を問う短文の空所補充問題であった。動詞・形容詞・代名詞の語法、接続詞、比較、仮定法、関係詞、分詞・助動詞などの正確な文法的知識が問われている。